

うらかな春の日差しが心地よい季節となり、花々も学園内を美しく彩り始めました。

この良き日に、明星高等学校を巣立ち行く卒業生の皆様、保護者の皆様、本当におめでとうございます。
在校生一同、心よりお喜び申し上げます。

今、先輩方と過ごした日々を思い返すと、様々な思い出が胸をよぎります。昨年5月の体育祭は本来の姿を取り戻し、学年合同での開催となりました。高校生活最初で最後の体育祭、懸命にバトンを繋ぐクラス対抗リレーや、何度転んでもあきらめず一丸となりゴールを目指すムカデリレーに出場する先輩方の姿に心打たれました。また、準備や片付けの際に先頭に立って下級生を導く様子が深く印象に残っています。

部活動や委員会活動では、新入生で何もわからない私たちに時に厳しく、時に優しく接して下さる先輩方は、とても頼もしい存在でした。先輩方のおかげで、私たちは充実した学校生活を送ることができました。

また、明星祭では例年とは異なり、様々な規制がある中で先輩方が工夫を凝らし、展示や、部活動の発表を成功に導いてくださいました。二日間と言う短い時間ではありましたが、先輩方と過ごすことのできたかけがえのない思い出です。

桜の花が咲き誇る中、明星高等学校の門をくぐった3年前、先輩方の高校生活はスタートしました。新しく始まる授業や、部活動、初めて出会う先生方や友人に心躍らせていたことと思います。この明星高等学校で過ごす日々は楽しいことではなかったかもしれませんが、また、感染症の影響で、先輩方の学苑生活は理想通りではなかったかもしれません。しかし、常に希望を絶やさず、前向きに行事や部活動に取り組む姿に勇気をいただきました。先輩方との思い出は、私たちの心にこれからも残り続けます。

「健康、真面目、努力」を体現して下さった先輩方のように、私たちが在校生も母校への想いを引き継いで、精一杯邁進していきます。

最後になりますが、未来へ旅立つ卒業生の皆様に、令和の元号の出典である万葉集より、飛鳥時代の歌人、柿本人麻呂の歌を送りたいと思います。

しきしまの 大和の国は 言霊の

さきはふ国ぞ まさきくありこそ

「日本は言葉の霊力により幸福を導く国です。どうかご無事でありますように」と気持ちを込めて、この歌を遣唐使に送ったとされています。

この歌のように未来と言う輝かしい世界に漕ぎ出していく卒業生の皆様のさらなるご活躍と、お幸せを在校生一同心から願い、送辞とさせていただきます。

令和5年3月1日

在校生代表 小澤 広隆